

# デザインから見た

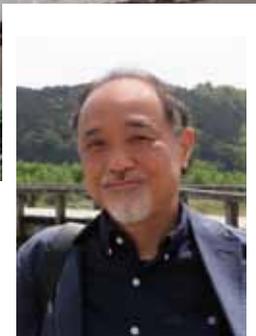
# 火の見櫓

江戸時代に登場した火の見櫓は、自治体単位で作られ全国一律の規格があるわけではないため、その形態には多くのバリエーションがあります。

地元の鉄工所のセンスが表れる造形物であり、ひとつひとつ丁寧にデザインされてきました。作る人も維持する人も共同体のシンボルとして大切に扱ってきましたが、現在急速に減少しています。

約三〇〇〇件の調査を経て見えてきた火の見櫓の造形とその意味、周囲で暮らす人々との関係、景観の中での存在感などをデザインという視点からお話します。

▲埼玉県川越市(講師提供)



講師：岸本 章氏 (多摩美術大学 建築・環境デザイン学科 教授)

2026年 会場対面・オンラインの併用開催です

主催 一般社団法人 日本民俗建築学会

日時 4月11日(土) 15:00-17:00

参加費 ●会場参加は500円 / ●オンラインは無料  
学生無料 参加費は会場で徴収します

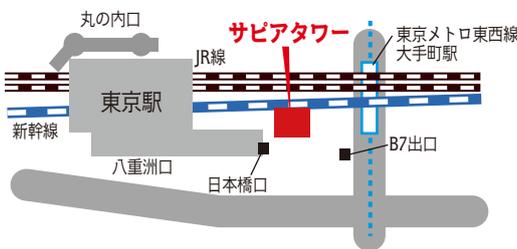
参加方法	● 会場での対面受講	R 立命館東京キャンパス	● オンライン視聴	zoom ZOOM
	要申込 <b>有料</b>	フォーム (QRコード) またはハガキで お申し込みください  <b>3月31日申込締切</b>	申込不要 <b>無料</b> 事務局からのメール・通信で URLをお知らせします。当日ログインしてください	
学芸員	要申込 <b>有料</b>	予約なしでは参加できません セキュリティの関係上、参加者全員に入構カードを準備します。そのため、会場参加申込は3月31日必着です	要申込 <b>無料</b>	フォーム (QRコード) からお申し込みください  一般zoom視聴は 4月9日まで受け付けます
一般	要申込 <b>有料</b>			

お問い合わせはnagune2000@yahoo.co.jpまで

会場 立命館東京キャンパス

東京都千代田区丸の内1丁目7-12サピアタワー内 (東京駅日本橋口 徒歩1分)

東京駅「日本橋口」を出た左の「サピアタワー」3階の受付へ。入構カードを受取り、8階会場へ。



▼切り取ってハガキに貼付してください 3月31日必着

162-0834

東京都新宿区北町18

一般社団法人  
日本民俗建築学会 行  
105研究会【会場受講】申込